

### 3 田島ヶ原サクラソウ自生地の植物相の継続調査からみた自然環境の変化

ある自然環境の下で形成された植物相は、その自然環境が変化すれば植物相もまた変化する。したがって、指定地の植物相を継続調査して植物相の変化を捉えることができれば、その変化を分析することによって、指定地の自然環境の変化を総合的に把握することができる。

指定地では維管束植物フロラ（シダ植物以上の高等植物による種構成）を継続調査し、その種構成の変化を分析して、自然環境の変化を総合的に把握する方法をとっている。この調査\*は1963年から実施され、5年間毎に植物相をまとめて公表している。

\* 磯田洋二 2007.3.20. 「国指定特別天然記念物 田島ヶ原サクラソウ自生地 植物目録」 さいたま市教育委員会

#### (1) 植物相の比較

調査開始直後の1963年～1967年と、最新調査の2003年～2007年の植物相を比較する。

#### ① 確認された植物相における分類群\*の数 (註) \*分類群には種・変種・亜種を含む

類別	1963年～1967年	2003年～2007年	増減率(%)
シダ植物	4	9	+225.0%
単子葉植物	73	100	+137.0%
離弁花植物	92	132	+143.5%
合弁花植物	81	102	+125.9%
合計	246	334	+135.8%

植物相の分類群構成を比較すると、1963年～1967年に確認された分類群の数は、40年後の2003年～2007年では、全ての植物の類別で著しく増加している。その増加率は全体で135.8%にもなっている。

#### ② 植物相の分類群構成が変化した内容

(註) 継続して生存と途中で消滅の(%)は、1963年～1967年に確認された分類群の数を100%とした割合、途中から繁殖の(%)は、2003年～2007年に確認された分類群の数を100%とした割合

類別	継続して生存	途中で消滅	途中から繁殖
シダ植物	4 (100.0%)	0 (0.0%)	5 (55.6%)
単子葉植物	59 (80.8%)	14 (19.2%)	41 (41.0%)
離弁花植物	79 (85.9%)	13 (14.1%)	53 (40.2%)
合弁花植物	65 (80.2%)	16 (19.8%)	37 (36.3%)
合計	203 (82.5%)	43 (17.5%)	136 (40.7%)

#### ③ 変化した内容ごとの主な植物

(註) 種名 は、外来種(帰化植物)

- 継続して生存する植物(203分類群の一部)：スギナ・コウヤワラビ・カモジグサ・スズメノテッポウ・トダシバ・イヌビエ・オヒシバ・ウシノシッペイ・オギ・ススキ・ヨシ・トダスゲ・アゼナルコ・ヤワラスゲ・カラスビシャク・ツユクサ・ノビル・アマナ・ノカンゾウ・コバギボウシ・オニユリ・コヤブラン・アマドコロ・シオデ・ドクダミ・ハンゲショウ・カラムシ・ウマノスズクサ・シロバナサクラタダ・イヌタダ・イシミカワ・マムコノシリヌグイ・アキノウナギツカミ・